

3.昭和58年の防除上特に注意すべき病害虫

中央農業試験場病虫部 発生予察科

本成績は、各農試、農業改良課及び各病害虫防除所が、昭和57年に実施した発生予察事柔ならびに試験研究業務などの結果から昭和57年に発生した主要病害虫及び新発生病害虫を総括し、さらにその発生から昭和58年の防除上特に注意を要する病害虫について取りまとめたものである。

昭和57年主要病害虫発生程度別種類数（平年対比）

作物名	少発生		並発生		多発生		作物名	少発生		並発生		多発生	
	病害	虫害	病害	虫害	病害	虫害		病害	虫害	病害	虫害	病害	虫害
水稻	13	9	0	1	1	3	ニンジン	2	0	1	3	0	1
小麦	5	3	2	0	3	2	ダイコン	0	0	2	5	1	2
大麦	1	2	2	2	0	0	ハクサイ	1	0	3	2	1	2
とうもろこし	4	2	0	1	1	3	キャベツ	3	0	1	1	0	3
大豆	2	0	4	6	1	2	トマト	6	0	3	1	1	1
小豆	9	1	1	3	1	4	ナス	2	2	1	1	0	1
菜豆	4	1	2	2	2	2	キュウリ	8	0	0	0	0	2
馬鈴しょ	4	1	5	4	1	1	スイカ	2	0	0	1	1	1
てん菜	7	1	3	2	0	2	メロン	1	0	2	0	2	2
リンゴ	5	1	1	2	2	3	イチゴ	3	0	3	1	0	1
タマネギ	3	0	1	1	0	3	牧草	9	1	7	0	1	3
ネギ	1	0	1	2	1	1	計	95	24	45	41	20	45
合 計 270種													

昭和57年に新たに発生または命名された病害虫

タマネギ	スギキタヨトウ(新発生) Hydraciamongoliensis URBAHN
ト マ ト	条斑病(新発生)キュウリモザイクウイルス(CMV) オオダパコガ(新発生) Heliothis obaoleta FABRICIUS
メ ロ ン	黒星病(新発生) Cladosporiummerinum Ellis et Arthur
カボチャ	葉枯肩(仮称) 同上
ハクサイ	Beet western yellows virus(新寄主)
ダイコン	同上 (新寄主)
アスパラガス	キイロホソガガンボ(新発生) Nephrotoma virgeta Coquillett
イネ科牧草	オオアカヨトウ(新寄生) Apamea lateritia HUFNAGEL

昭和58年の防除上特に注意を要する病害虫

作物名	病害虫名	昭和57年度の発生		昭和58年の防除上の留意点
		概評	主要因または知見	
水稻	白葉枯病	多(道央)	菌定着 感染源 罹病性 品種増加	イネ科雑草刈取、耐病性品種
	紅変米	多	エピコツカム菌多、割粃多	割粃少品種 倒伏防止 適期収穫
	*カメムシ	多	転換小麦畑で多、8月好	割粃少品種、転換小麦畑や畦畔

	(斑点米)		天、 防除不適正、割粃多	などでの発生動向、適正防除
	イネミギワ バエ	多	2種発生、春先好天で産 卵多 田植後低温少照で生育停 滞	健苗育成、浮葉の回避、産卵の 早期発見
小麦	雪腐病	多 (F菌 多)	保菌種子、播種遅延、早 期多雪越冬時の生育稚 苗、防除不適正積雪長期 耐性菌拡大 排水不良	適期播種、合理的施肥、排水、 融雪促進 種子消毒、適正防除
	条斑病	多	地域拡大、5月病微出 現、減収種子汚染土中菌 量、種子消毒	無菌種子、種子消毒、輪作、耐 病性品種、 未発生地で採種栽培
イネ科作物	アワヨトウ	多	異常早発、5月末前線通 過、1時期に集中産卵	低気圧情報、幼虫の早期発見
とうもろこ し	さび病	多	地域拡大、飼料用にも発 生	被害茎葉処理、輪作
小豆	ヒラズハナ アザミウマ	多(道 央)	転換畑、連作、少雨	輪作、早期発見、早期防除
菜豆	かさ枯病	多	保菌種子使用、発芽時多 雨	無菌種子、種子消毒、早期防除
豆類など	タネバエ	多(道 央)	越冬量多、有機物多、5 月高温	早期覆土、種子粉衣、作条施薬
馬鈴しょな ど	アブラムシ 類	多	5～7月好天、ワタアブ ラムシ生態型、ウイルス 媒介、被害	早期発見、早期防除、薬液十分 量散布、種類による殺虫剤選択
てん菜など	タマナヤガ	多	越冬生態不詳、移動飛来 と推定	早期発見、早期防除
てん菜	そう根病	やや少	ELISA法、広域分布、土 壌検診	ウイルス確認畑では既存対策
リンゴ	モニリア病	多(道 央)	越冬量多 5月上多雨 防除遅延	子実体防除、樹上適期防除
葉菜類	べと病	多	地域拡大、菌密度高、品 種間差	耐病性品種、発生源除去
スイカ台木 ユウガオ	つる割病	多(道 央)	保菌種子、種子消毒不良 (注 府県では土壌、汁 液伝染)	無菌、完全消毒種子、病苗処分 発病床土消毒、 カボチャ台木
ダイコン ハクサイ	モザイク病	多(道 南)	TuMVが主体、アブラムシ 類多発生、3～4期連続 栽培	病株除去、アブラムシ類防除 連続栽培回避
アルファル ファ	根腐病	多(道 東)	前年秋多雨、茎枯病多発	排水、融雪水排除
	雪腐病	多(道 東)	Tin菌生物型A多 多雪吹 きだまり	融雪促進

注 *カメムシはアカヒゲホソミドリメクラガメを示す。